

海外インターンシップ いざ海外へ！ —国際交流団体での経験—

早稲田大学の特徴のひとつに、国際交流の機会がたくさんあるということが挙げられます。多くの留学生が在学し、また海外に留学する学生もとても多いです。今回は、アメリカ・シアトルでの留学中に、半年間、日米国際交流団体でのインターンシップ活動を経験した原さんの特集です！

Q1. なぜ海外インターンを選んだのですか？

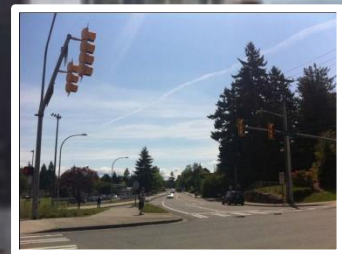
留学の集大成として、とにかく数字や形に残る「結果」というものが欲しかったからです。チームで1から仕事を積み重ねて行き、かつ自身の英語力を更に鍛えこむためにもかねてから海外に出て、大学に留学しながら働きたいと思っていました。※在学中のインターンシップという形であればアメリカでも就業できます。

Q2. 現地ではどんな活動をしたのですか？

日米の交流イベントの運営業務に関わる全てのことを行いました。具体的には、会場取り・集客、広報活動・電話対応、スポンサーさんや役員の皆さんとの交流、必要となる書類の作成、その他の管理業務（総務・人事・経理）などです。

Q3. どのような制度を利用したのですか？

2年制の大学へまずは私費留学し、その中でもインターンシップ活動がカリキュラムに導入されているものを選びました。アメリカでは在留制度が非常に厳しいため、外国人がインターンシップをする場合は、留学などで教育機関に所属して行うのが一般的になります。



Q4. 活動中の費用について教えてください

就業中の諸経費については一部補助がありましたが、基本的には自費でした。交通費は定期券を買って安く済ませたり、ランチは特に用事が無ければお弁当を作ったりしました。

Q5. 思い出話や、経験を通して変わったことがあれば教えてください

普段目にかかれなかった方々や団体さんと共同してゴルフトーナメントを成功させたことが一番の思い出です。集客のための工夫やスポンサーさんとの交渉など数えきれないくらいの思い出がありますが、何といっても自分の力と合わせてチームで結果を出せたことは自分の自信に大きくつながりました。

Q6. 新入生の皆さんへメッセージをお願いします

大学に入ったからには海外で何かをしてみたいという人にとって、留学やインターンシップは魅力的な制度だと思います。どこからかチャンスがやってきたときには「好機逸すべからず」という思いで有限な学生生活を楽しんでください。一生懸命頑張ったことは必ず良い結果として今後の財産になるはずです。

PROFILE



原 卓矢 (はら たくや)
社会科学部4年。このインターンシップの経験から人とビジネスそれぞれをつなげる業界に興味を持ち、物流企業への就職を決める。

こうはいナビスタッフの
おススメ施設！

キャリアセンター

場所: 戸山キャンパス学生会館3階
自身のキャリアを考えるならここ！
就職活動の相談やガイダンス、企業説明会などの就職支援のほか、早大生の様々なキャリア形成支援を行っています！